

＜藤山台中学校区・岩成台中学校区＞  
学校統合に向けた第3回意見交換会 議事録

1 開催日時  
令和8年3月1日（日）午前10時～正午

2 開催場所  
東部市民センター 多目的室

3 参加者数 52名

【事務局】

春日井市教育委員会		部長	森本 邦博
〃	学校教育課	課長	前原 敦
〃	〃	主幹	梶田 傑
〃	〃	指導主事	田中 秀治
〃	〃	課長補佐	深見 健司
〃	〃	主査	安田 和志
〃	〃	主事	杉山 太一

4 内容  
(1) 学校統合に向けた検討について説明・意見交換  
(2) 参加者どうしによる意見交換

5 会議資料  
＜藤山台中学校区・岩成台中学校区＞学校統合に向けた検討について

## 1 開会

### 【教育部長あいさつ】

日頃より市政にご理解とご協力をいただき、御礼申し上げます。

本市では小中学校の適正規模や適正配置について検討を進めるため、これまで、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区において、保護者や地域の方を対象にアンケートを実施し、意見交換会を開催してきたところです。

これまでの意見交換会では、多くのご意見やご提案をいただいています。その中には、市の具体的な方針がまだ示されていないというご意見もいただいています。現時点では、市として具体的な方針を決めるタイミングとは考えておらず、まずは1人でも多くの方々に小中学校の現状や課題をご説明し、皆様に共有していただくとともに、皆様の意見をお聞きし、丁寧に進めていく段階であると考えています。他にも、高蔵寺ニュータウン全体で考えてほしいというご意見もいただきました。市としても、広域的な視点から学校のあり方を検討する必要があると考えています。

さて、5つの中学校区で検討を進めていますが、それぞれの地域にはそれぞれの地域性があることを実感しています。また、検討の取組のスピード感も中学校区ごとで異なってきています。坂下中学校区については、坂下小学校、西尾小学校、神屋小学校の3つの小学校の統合に向けて、基本方針の策定を進めています。現在、保護者や地域の皆様から広くご意見をいただくため、パブリックコメントというご意見を募る手続きを進めています。

本日の藤山台中学校区と岩成台中学校区については、それぞれ第2回意見交換会で両中学校区での学校統合に向けて検討を進めるという考え方をお示しました。今回初めて、合同で意見交換会を開催します。新たな試みとして、託児を受け付けたり、参加者どうしの意見交換を行う場を設けたりしています。子どもたちにとってより良い教育環境の実現に向けて、ご参加の皆様と市職員、皆様どうしで思いや意見を話していただき、実りある意見交換となるようにご期待を申し上げます。本日はどうぞよろしく申し上げます。

## 2 学校統合に向けた検討について説明・意見交換

### (1) 説明

#### 【事務局】

#### I 小中学校の適正規模等の取組について（資料1～4ページ）

- ・子どもたちの数の減少により、今後、標準的な規模を下回る学校が増えていくことが想定される中、子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、互いに認め合い、協力し合いながら成長し、社会性を身に付けていくためには、一定の学校規模を確保することが望ましいと考えている。将来を見据え、子どもたちにとってより良い教育環境を実現するために、学校の適正規模や適正配置について検討を進めている。
- ・本市では、令和7年2月に「小学校・中学校の適正規模等の基本的な考え方」を策定した。その中で、国の基準を参考に、規模が小さい学校について、クラス替えができるかどうかの視点から、学校規模の区分を設けた。学級数の基準については、1学級あたりの児童生徒数を小学1年生から中学1年生までは35人、中学2年生及び3年生は40人としている。なお、中学生については、愛知県では2年生が令和8年度以降、3年生が令和9年度以降、40人学級から35人学級へ移行することとされており、移行する年度からそれぞれ1学級35人で推計している。
- ・本市は、全学年でクラス替えを可能としたり、学習活動の特質に応じて学級を超えた集団を編成したり、同学年に複数の教員を配置するためには、小学校、中学校ともに、1学年に2学級以上あることが必要であると考えている。そこで、どの学年もクラス替えができない「過小規模校」や、一部の学年でクラス替えができない「小規模校」について、過小規模校を優先に、通学区域の変更や学校の統合などにより、適正規模の確保に努めるように検討することとしている。
- ・中学校区で見た場合に、将来すべての小学校が「過小規模校」又は「小規模校」になると推定される、坂下、藤山台、高森台、石尾台、岩成台の5つの中学校区にある学校を最優先に検討を進めている。
- ・これまでの取組として、今年度に入り、小中学校のPTA役員の皆様への説明・意見交換をし、その後、保護者や子どもたち、地域の方へのアンケートを実施した。次に対象の中学校区にある17校で第1回意見交換会を、対象の中学校区ごとに第2回意見交換会を開催した。

#### II 児童生徒数推計について（資料5～8ページ）

- ・中学校では令和19年度まで、小学校では令和13年度までは、令和7年度の0歳から5歳の子の実際の人口に基づき推計している。令和22年度は、市が人口の現状分析などから将来の人口動向を推計した「人口ビジョン」と言われる計画から推計している。

- ・藤山台中学校区の各学校の「児童生徒数」と「学級数」の現状と今後の推計について、藤山台中学校は、今年度、生徒数 190 人、6 学級で、学校規模は、小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」である。今後は、生徒数、学級数ともに減少し、令和 15 年度には、クラス替えができない学年がある「小規模」に、令和 16 年度からは、全学年でクラス替えができない「過小規模」になると推定される。
- ・藤山台小学校は、今年度、児童数 317 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度には「小規模」となり、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。
- ・岩成台中学校区の各学校の推計について、岩成台中学校は、今年度、生徒数 235 人、7 学級で、学校規模は「やや小規模」である。今後、生徒数及び学級数は減少し、令和 22 年度では「過小規模」であると推定される。
- ・岩成台小学校は、今年度、児童数 201 人、8 学級で、学校規模は「小規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 11 年度から、「過小規模」になると推定される。
- ・岩成台西小学校は、今年度、児童数 295 人、12 学級で、学校規模は「適正規模」である。今後は、児童数、学級数ともに減少し、令和 12 年度から「小規模」になり、令和 22 年度では「過小規模」であると推計される。
- ・仮に岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合の合計は、令和 13 年度では、児童数 369 人、14 学級で、学校規模は「適正規模」だが、令和 22 年度では、児童数 199 人、8 学級で「小規模」であると推定される。  
岩成台小学校と岩成台西小学校を統合したとしても、令和 22 年度ではクラス替えができない学年があり、適正規模の課題が解決しないこととなる。

### III アンケート結果について（資料 9～10 ページ）

- ・藤山台中学校区について、「1 学年に 2 学級以上となるように、学校の適正な規模や配置に市が取り組むことについて」の質問では、「ぜひ進めるべき」又は「進める方がよい」と回答された「賛成」の方の割合は、藤山台小学校の保護者では 66.6% となっている。地域の方も小学校単位で集計しており、地域の方は 86.9%の方が賛成と回答している。また、藤山台中学校の保護者は、77.5%が賛成と回答している。「進めない方がよい」又は「進めるべきではない」と回答された「反対」の方は、藤山台小学校の保護者で 6.7%、地域の方は 0%、藤山台中学校の保護者で 2.9% となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多くみられた。
- ・岩成台中学校区について、先ほどと同様の質問に「賛成」の方の割合は、岩成台小学校、岩成台西小学校の 2 校を合計した小学校「全体」の保護者では 58.1% となっ

ている。地域の方は71.6%の方が賛成と回答している。また、岩成台中学校の保護者は、61.8%が賛成と回答している。

「反対」の方は、小学校全体の保護者で9.5%、地域の方で19.4%、岩成台中学校の保護者で10.6%となっている。反対の理由として、保護者の方は、小学校、中学校ともに「登下校の時間や方法」を心配する方が多く、地域の方は「環境変化による子どもたちへの影響があるから」と多くの方が心配している。

#### IV 意見交換会でのご質問・ご意見について（資料11～38ページ）

- ・藤山台中学校区の第1回意見交換会について、藤山台中学校での意見交換会は9月22日に開催し、参加者は6人であった。藤山台中学校での質問は「統合に関することについて」や「今後の具体的な検討の進め方について」など、合計20件あった。藤山台小学校は10月15日に開催し、参加者は18人であった。藤山台小学校での質問は「市の考え方について」や「魅力ある学校づくりについて」など、合計21件あった。

- ・岩成台中学校区の第1回意見交換会について、岩成台中学校では9月26日に開催し、参加者は6人であった。岩成台中学校での質問は「アンケートについて」や「統合に関することについて」など、合計15件あった。

岩成台小学校は9月29日に開催し、参加者は23人であった。岩成台小学校での質問は「今後の具体的な検討の進め方について」や「学校跡地について」など、合計18件あった。

岩成台西小学校は10月3日に開催し、参加者は19人であった。岩成台西小学校での質問は「統合に関することについて」や「1学級の人数について」など、合計14件あった。

- ・第1回意見交換会の質疑応答の中から主なものを紹介する。

14ページの質問No.3「1学級あたりの子どもの数を減らして、学級数を増やす対応を取ればよいのではないか。」との質問では、「本市の1学級あたりの人数は、愛知県の基準と同様に、小学校の全学年及び中学1年生は35人、中学校の2、3年生は40人としており、その基準をもって教員数が配置されています。1クラスあたりの子どもの数を減らし学級数を増やしても、教員が配置されないことから、市独自の基準で実施することは困難です。」と回答している。

17ページの質問No.3「小中学校の適正な規模等に関する検討だけでなく、子どもの数を増やす施策は考えていないのか。」との質問では、「ニュータウン創生課が中心となって、ニュータウンに関する施策に取り組んでいます。また、市では子育て支援にも力を入れておりますが、それ以上に少子化が進んでいる現状があります。ニュータウン施策と子どもたちの教育環境を充実させるということを同時並行で進

めていきたいと考えています。瀬戸市では、複数の学校を統合した「にじの丘学園」ができたことにより、人口が増えていることを聞いています。本市も人が集まるような魅力的な学校を皆様と一緒につくりたいと考えています。」と回答している。

22 ページの質問No.11「藤山台小学校では5年くらいかけて統合されたと理解しているが、岩成台地区ではどうなるのか。」との質問では、「藤山台小学校は3校を統合してできた学校で、検討から6年程度かけて取組を進めました。当時は、統合することを前提にして地域で説明を行っています。今回は藤山台小統合の時と進め方が違いますが、意見交換会の後に協議会を立ち上げたいと考えています。仮に統合すると決まったとして、既存の学校を使用する場合、リニューアルする場合、新しい学校をつくる場合で期間は変わってきます。新しい学校をつくる場合やリニューアルする場合は、設計と工事の期間で5年程度必要となります。」と回答している。

24 ページの質問No.6「統合すると子どもの家の定員はどうなるのか。」との質問では、「子どもの家は、放課後児童の安全な居場所として重要であり、統合後の学校で子どもの家が運営されることが望ましいと考えています。今後、学校の適正規模等の検討を進めていく中で、子どもの家の担当部署と連携し、検討していきたいと考えています。」と回答している。

27 ページの質問No.5「小中一貫校について検討をしているのか。」との質問では、「小中一貫校については、他市でも事例がありますので、皆様と協議する中で最適なものを選択していきたいと考えています。」と回答している。

- ・第2回意見交換会について、藤山台中学校区は11月29日に開催し、参加者は11人であった。藤山台中学校区での質問は、「意見交換会について」や「不登校の子どもたちへの対応について」、「統合に関する市の考え方について」、「小中一貫校について」など、合計20件あった。
- ・岩成台中学校区は11月22日に開催し、参加者は22人であった。岩成台中学校区での質問は、「統合に関する市の考え方について」や「通学バスについて」、「魅力ある学校づくりについて」、「他自治体の事例について」など、合計21件あった。
- ・第2回意見交換会の質疑応答の中から主なものを紹介する。

32 ページの質問No.16「どのような意見がまとまったら統合すると決定するのか。具体的な統合案があると保護者も考えやすいと思う。」との質問では、「統合を決定する基準はありません。子どもの教育環境の向上のためになるべく早く取りかかりたいと考えています。今後は、市の考え方をまとめた基本方針を作成した後、学校の場所やバスの運行など、より具体的な統合案を皆様と考えていきたいと思います。」と回答している。

35 ページの質問No.6「藤山台小学校は学校が新しいので、スムーズにいけば3年くらいで統合できるのではと思うが、他の校区は工事が必要になれば5年程度かかる

として検討を進めていると思う。5つの中学校区が足並みをそろえて統合に向けて動き出すのか。それとも各中学校区で意見がまとまった地区から進めていくのか。」との質問では、「5中学校区で意見がまとまったら統合を進めるわけではなく、早く合意形成ができた地区から進めていきたいと考えています。また、今の藤山台小学校を使うことは前提としていません。新しい学校を建設することも含め、どこに統合するかなど具体的なことは皆様とともに検討を進めていきたいと考えています。」と回答している。

#### V 藤山台中学校区、岩成台中学校区における市の考え方について（資料 39～40 ページ）

- ・「1 児童生徒数推計」から、
  - (1) 藤山台中学校区は、令和 22 年度では、藤山台中学校、藤山台小学校ともに、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」であり、小中学校の 9 年間でクラス替えない環境になると推定される。
  - (2) 岩成台中学校区は、令和 22 年度では、中学校区内の全ての小中学校が、全学年で学級数が 1 学級の「過小規模」と推定される。また、小学校については、岩成台小学校と岩成台西小学校を統合した場合でも、「小規模」になると推定される。
  - (3) 藤山台中学校区、岩成台中学校区ともに、それぞれの中学校区内では適正規模の課題の解決ができない。
- ・「2 アンケート結果」から、
  - (1) 学校が適正な規模や配置となるように取り組むことについて、賛成意見が多く、複数学級が望ましいと考えられている。
  - (2) 保護者は子どもの人間関係に広がりがあること、児童生徒は行事でクラスに活気があることやクラス替えで新しい友達がたくさんできること、地域の方は子どもたちがより良い教育環境で学校生活を送れることが重要と考えている。
  - (3) 学校の規模や配置を見直す場合、登下校に関することを多くの方が心配している。
- ・「3 地域の特性」として、
  - (1) ニュータウン地区内で、藤山台中学校区と岩成台中学校区は隣接し、藤山台中学校と岩成台中学校は、直線距離で 0.9 km の距離に位置しており、他の中学校と比較して最も近い距離にある。
  - (2) 藤山台中学校区では、平成 25 年 4 月に藤山台小学校と藤山台東小学校を統合し、平成 28 年 4 月に西藤山台小学校を統合した。現在、藤山台小学校は、中学校区内の唯一の小学校である。

- ・「4 意見交換会」では、
    - (1) 藤山台中学校区の意見交換会では、意見交換会についてや不登校の子どもたちへの対応についての質問が多くあった。また、統合に関する市の考え方や小中一貫校について、他自治体の事例についてなど、様々な質問があった。
    - (2) 岩成台中学校区の意見交換会では、統合に関する市の考え方についての質問が多くあった。また、通学バスや魅力ある学校づくりについて、他自治体の事例についてなど、様々な質問があった。
  - ・これらのことを踏まえ、藤山台中学校区と岩成台中学校区における本市の考え方については、
    - 1 藤山台中学校区と岩成台中学校区の学校の統合を検討する。
      - (1) 中学校は、藤山台中学校と岩成台中学校の統合に向けて検討を進める。
      - (2) 小学校は、藤山台小学校・岩成台小学校・岩成台西小学校の3校の統合に向けて検討を進める。
    - 2 新しい学校が魅力ある学校となるように検討を進める。
 また、検討を進めるにあたって、
    - ・登下校については、バスの利用などの通学手段を検討する。
    - ・小中一貫教育や特色あるカリキュラムの導入など、子どもたちにとって、また、地域にとって、魅力ある学校となるように検討する。
  - ・藤山台中学校区と岩成台中学校区の児童生徒数推計の合計について、藤山台中学校と岩成台中学校の合計では、令和13年度まで「適正規模」で推移すると推定されるが、令和14年度には小規模だが全学年でクラス替えができる「やや小規模」になると推定される。
- 藤山台小学校、岩成台小学校、岩成台西小学校の合計では、令和22年度においても「適正規模」を維持すると推定される。

## (2) 意見交換

### 【質問1】（岩成台小学校区）

市が丁寧に説明して進めてもらいたいと思っている。基本的に統合には賛成している。私は岩成台小学校区の地区社協の活動をしていて、小学校の体育館が避難場所になっている。統合した場合に、その地区の避難場所はどうなるのか。

### 【事務局】

避難場所についてですが、現時点で体育館を残すかどうか決定していません。今後検討していく課題になると思います。地域の皆様が有事の際や災害があったときに避難場所に困らないように、市がしっかり対応していきたいと思っています。

**【質問 2】**（岩成台小学校区）

今の回答では、体育館を残すのか残さないのか、わからない。

**【事務局】**

体育館を残すのか、最終的な決定がされているわけではないのではっきりしたことは言えないですが、避難所という機能は必要なものですから、その機能については必ず保てるようにお約束したいと思います。

**【質問 3】**（藤山台小学校区）

統合については基本的に賛成だが、資料のアンケート結果に地域の方の結果がでているが、どのように実施して集計しているのか。

**【事務局】**

地域のアンケートにつきましては、市からの広報配布に合わせて、対象の中学校区の世帯の方にチラシを配布し、アンケートのご協力をお願いしました。その中で回答いただいた人数は、藤山台中学校区では 46 人、岩成台中学校区では 67 人です。

**【質問 4】**（藤山台小学校区）

藤山台と岩成台の人口を考えた場合、データとしてはちょっと寂しいような気がする。これまで、開催された意見交換会に参加された人数はどれくらいか。

**【事務局】**

藤山台中学校区は、第 1 回が中学校と小学校合わせて 24 人、第 2 回が 11 人の合計 35 人です。岩成台中学校区は、第 1 回が中学校と小学校合わせて 48 人、第 2 回が 22 人の合計 70 人です。

**【質問 5】**（藤山台小学校区）

説明を聞くと、賛成の意見が多いようだが、結論は皆さんの意見を聞いて決定するのか。

**【事務局】**

今、行っている意見交換会は、皆様の考えや思いを受けとめる場ということで開催しています。意見交換会後の次の段階として、市の考え方を基本方針としてまとめていきます。

**【質問 6】**（藤山台小学校区）

保護者や地域の方などもっと多くの方の意見を聞いて、もう一度考えることも大事なことだと思う。皆の意見を集約する上で、意見交換会以外の方法はないのか。

**【事務局】**

基本方針を取りまとめた後は、パブリックコメントを実施し、全市的に皆様のご意見を伺う機会を設けます。その後は、懇談会の場で地域の皆様や保護者の方たちと継続して話し合いを続けていきたいと思っています。今後も多くの方のご意見を伺いながら検討を進めていきます。

**【質問 7】（岩成台小学校区）（意見）**

跡地の利用については別で考えるという説明だったが、小学校は避難場所も含め、防災イベントを開催するなど、地域として非常に重要な場所だと思う。跡地のことを切り離して、まずは統合という話をするのは不誠実だと思う。教育委員会で決められないのであれば、意見交換会に責任のある方を呼んで、地域全体で検討する必要があることを認識してもらいたい。子どもの数だけみれば、統合やむなしという雰囲気があるが、地域の生活を考えると跡地を検討する場をもっと設ける必要があると思う。

**【質問 8】（岩成台小学校区）**

統合について、今は決定せず意見を集めているところで、その後、市の基本方針を作成して、通学バスなどの具体的な考え方を示すとのことだった。通学について、我々が意見を言う機会があるのか。決定までのプロセスを教えてください。

**【事務局】**

基本方針を策定した後は、保護者や地域の代表の方、学校関係者などで構成する懇談会の設置を考えています。その中で、市が統合に向けた複数の案を提案したいと思っています。また、学校の場所による通学範囲の案も出して議論していきたいと考えています。懇談会はどなたでも傍聴していただけますし、必要に応じて、保護者や地域の皆様にご参加いただく意見交換会も開催していこうと考えています。

これらの意見交換を続け、統合に向けた基本計画を策定していきます。統合に向けた計画には、学校の場所やバスの範囲などを記載していくことを考えています。

**【質問 9】（玉川小学校区）（意見）**

私は小規模校の学校が、子どもの環境として良くないという考え方に疑問を感じている。全国には小規模校でも本当によい学校はいくつもあると思う。不登校の子に対応した学校に変えていくとか、今ある学校をどう守っていくのかということを考えるのが、本当に子どもを守っていくことになるのではないかと思う。通学バスの利用についても、私は歩いて通うのが基本だと思っている。子どもがバスに合わせた生活になることが本当に教育環境としてよいのかということは、もう一度考え直して欲しいと思う。

### 3 参加者どうしによる意見交換

1 グループ5人から7人で円になり、テーマごとに参加者どうしで自由に発言し、意見交換を行った。各グループには職員が入り、進行・発表を行った。

参加者：38人（藤山台小学区19人、岩成台小学校区8人、岩成台西小学校区8人、その他の小学校区3人）

各テーマとテーマごとの主な意見は次のとおり

#### (1) テーマ1 統合する場合、新しい学校に望むこと

- ・学校の数をある程度少なくして、ハード面を充実する費用をまかなうことが必要である。
- ・体育館が大きい方がよい。そうすると部活動も活発になって、子どもが楽しく過ごせるのではないか。
- ・施設面では、トイレは絶対にきれいな方がよい。
- ・越境通学や校区外通学を認めるように、駐車場のスペースを増やすなど整備してほしい。
- ・英語に特化する授業や手に職がつくような知識を学べるような魅力ある学校づくりが必要である。
- ・クラス替えができて多くの人に関われるような学校がよい。
- ・少人数の学校でも充実した教育を望むことができる。
- ・通いやすさ、歩いて通える安全な場所である学校がよい。
- ・自分たちで考えてつくりあげる教育が大事だということで、授業のカリキュムを児童生徒同士で考えることができる学校がよい。
- ・障がいをもつ子どもも普通学級の子と一緒に学ぶことができる環境、インクルーシブ教育ができる学校がよい。
- ・いじめが増えているのでいじめが減る、無くなる、自殺がないように、風通しのよい学校にしていきたい。
- ・様々なことを学べるような環境にしてほしい。
- ・親や地域から見える学校づくりが必要。
- ・運動場が地域に開放されるような学校であれば、安心安全に子どもが遊ばせることができ、地域も関わるができると思う。
- ・地域に開かれた学校ということで、保護者と地域、学校が一緒になって、学校づくりをしていきたい、皆で一緒に学びたい。
- ・教育委員会は子どものことを第一に考えるということだが、地域の人にとっては、ニュータウンのまちづくりの一つとして考える必要がある。

- ・意見交換会に、ニュータウンのまちづくりのことを考えニュータウン創生課や跡地のことを考え産業部など、市の他の部署にも参加してもらってはどうか。

## (2) テーマ2 統合する場合、心配なこと

- ・バスを利用することになった場合、どういった基準で利用できるのか、料金はどれくらいなのか、コースがどうなるのか、遅刻したらどうなるのかが心配。
- ・バスを利用することになった場合、部活動も地域クラブに移行する中で、運動する機会が減るので、体力面の成長が心配。
- ・バスや送迎の場所の確保をしてほしい。地区によっては校区の見直しも必要になるのではないかな。
- ・通学バスの導入ではなく、通学路の防犯や安全の確保が一番大事なことなので、バス導入にお金や労力をかけるのであれば、ボランティアや地域の方に見守りをお願いして学校と一緒にやっていくことが大事。
- ・校区が広がれば、交友関係も広がるので、放課後、行動範囲が広がり、安全面が心配。
- ・持ち帰りの荷物、タブレットの使用などから、ランドセル自体も重いので、工夫が必要。
- ・跡地について、小学校は地域に根ざしているものであり、子どもたちがスポーツをする場、地域の方たちが集まる場でもあることから、跡地のことは積極的に検討を進めてほしい。
- ・学校が遠くなること、登下校の安全に不安がでてくること、通学の見守りの体制やどうやって安全を確保するのか。
- ・児童生徒数推計からニュータウン全体を見たときに、今回統合したとしてもまたその先に統合が必要になるのではないかな、ニュータウン全体の将来を見た市の考え方が必要になるのではないかな。
- ・統合した後の土地利用、子どもの家は統合しても同じような規模で利用することができるのか。
- ・体育館も地域の方が使うことができるのか。料金はどうなるのか。
- ・中学校を統合することになった場合、自転車通学も考えられると思うが、ニュータウン地区だと坂道などが危ないので、交通安全教育を強化してほしい。また、電動自転車購入の補助制度がほしい。
- ・人数が増えると個性がなくなってしまうと思う。

### (3) テーマ3 統合する場合、新しい学校の場所の考え方

- ・岩成台西小学校と岩成台中学校の敷地で一つ大きな学校を立ち上げたらどうか。
- ・岩成台中学校、岩成台西小学校に小中一貫校ができればよい。
- ・施設が新しいので、小学校は藤山台小学校を使って、中学校は岩成台中学校を使うとよい。
- ・藤山台小学校は施設が新しいので、その活用方法を検討してほしい。
- ・小学校を1つではなく、2つにして、中学校だけ統合したらどうか。
- ・通学バスを導入する場合、バスが巡回しやすいところ、子どもたちの安全面を考えれば、大通りには面していないようなところが良い。
- ・行政コストがかからないようにしてほしい。
- ・現状、既にいびつな学校区になっているため、改めて校区の見直しを図って、一番近いところに通うことにすればよい。
- ・UR都市機構と協力して新しい場所を確保して、大きな敷地に小中一貫校をつくりたい。

#### 【教育部長総括】

とても多岐にわたってご意見をいただきました。全ての人の思いや考えを一致させることは難しいということは、私だけでなく、皆様も思っているかなと感じています。やはりどこかで、子どもたちにとって何がよいかという最善の決断をしなければならぬと思いました。

学校を取り巻く環境として、意見交換の中でいろいろなキーワードがありました。地域に開かれた学校や魅力ある学校づくり、個性が活かされた学校、少人数学級の良さ、設備面でいうとトイレの課題もありました。小中一貫校というキーワードもありました。また、ニュータウンとしてのまちづくり、跡地利用の意見もあったと思います。こうしてみると、学校の問題だけでなく、幅広い課題が存在していると思います。避難所もそうですし、学校体育館の開放ということも話題として出たと思います。

跡地の検討につきましては、非常に難しい問題だと思います。これを先行して考えてしまうと、本来の子どもたちのために学校がどうあるべきかという本筋のところがなかなか決まらなくなるのではと心配しています。決して、跡地の検討を置き去りにするわけではありませんが、子どもたちにとっての学校がどうあるべきかという本筋のところをしっかりと私たちが決めた上で、同時もしくはその後に跡地のことを検討するようにしないと、枝葉の部分の話がまとまらないために、子どもたちにとってより良い教育環境の実現という本来の目的が達せられなくなるかもしれません。子どもたちにとっての学校ということをしっかり皆さんと議論を重ねなが

ら、決めていければよいと思います。今は教育委員会だけで検討を進めていますが、皆さんのおっしゃるとおり、まちづくりのことを考えるといろいろな部署が連携して取り組む必要があるので、どこかのタイミングでは、市をあげての検討をすべきと思っています。決して跡地の利用を置き去りにしているわけではありません。第一に子どもたちにとってどうあるべきかを皆様とともにしっかりと考えていけたらと思っています。

今日このような形でグループに分かれて、いろいろなご意見やご提案をいただきましたが、できればこういった機会を増やし、本当に多くの人に関心をもっていて、会場に入りきれないくらいの雰囲気でも盛り上げていきたいと思っていますので、引き続きよろしく申し上げます。

#### 4 その他

##### 【事務局】

- ・今後の進め方については、再度、藤山台・岩成台中学校区の皆様同士で意見交換する機会を設けたいと考えている。また、それと並行して、本日説明した市の考え方を基に、市で藤山台・岩成台中学校区における学校統合に向けた基本方針の策定を進めていく。基本方針の策定にあたっては、ニュータウン地区全体で策定するのか、藤山台・岩成台中学校区だけで策定するのかを、高森台・石尾台中学校区の状況を踏まえ、検討していく。
- ・基本方針の案がまとまったら、パブリックコメントを実施する。パブリックコメントは、市が政策などを決定する際に広く市民に意見を募るもので、インターネットの活用や公共施設での閲覧などで実施する。
- ・先日、中学校区ごとに学校統合の取組の情報を掲載した「学校のこれから通信」を発行した。今後随時発行し、取組の状況をお伝えするとともに、次回の意見交換会やパブリックコメントの実施日程についてもお知らせする。  
「学校のこれから通信」は、保護者の方へは学校情報配信アプリのHome&Schoolで、地域の皆様へは回覧板でお知らせする。

#### 5 閉会

正午 閉会